

KANKOU TAKASAKI

観光たかさき

2013
WINTER 冬号
VOL.121

Succession

継承の技

受け継がれる職人の技に出会う

旧中山道・赤坂通りを歩く ～赤坂町・常盤町界限～

高崎の観光再発見

花街の面影が漂う電気館界限





「鉢の木 七富久」のオリジナル和菓子

受け継がれる 職人の技に出会う

旧中山道・赤坂通りを歩く ～赤坂町・常盤町界隈～

関東ローム層の赤土でいくつも坂があったことから赤坂の地名がついたといわれる赤坂町には、かつて高崎の宿を取り巻いていた“遠構え”が通っていた。そして高崎城の名木・松の常盤（常緑）に由来する常盤町には、高崎藩の木戸が設けられ、中山道を板鼻から高崎領に入り碓氷川を渡ると、ここからが高崎の宿。江戸時代には茶店が軒を連ねていたという。

そんな歴史を感じながら赤坂町・常盤町界隈を巡ると、連綿と受け継がれてきた職人の技が息づく街の姿が浮かび上がってきた。

■三国街道と旧中山道が出会う
本町二丁目交差点をめざして

高崎郵便局（本局）の向かいの姉妹都市公園、その地下にある市営高松地下駐車場に車を入れ、大通りを渋川方面に数分進むと、左側に高崎神社がある。寛元年中（1243～1247）に、和田城主和田義信の子、小太郎正信が、和田氏発祥の地である相模国（神奈川県）の三浦の熊野神社から勧請したと伝えられる。明治44年



高崎神社



●そば処 信松庵
住所：高崎市赤坂町 60
電話：027-322-5529
営業時間：午前 11 時～19 時 30 分
定休日：火曜

高崎で最も古い蕎麦屋さん

明治 35 年創業の高崎で最も歴史ある蕎麦処。創業以来変わらずに、自家製そば節の削りたてを使用し、豊かな風味のある美味しいダシが自慢。一度食べるとまた食べたいという味わいに、普段着でやってくる常連さんや、高崎に来たらここに寄るといったお客さんと賑わう。写真は鴨南 760 円





◀和菓子づくりには欠かせない
焼印と木型



■献上銘菓処「鉢の木 七富久」
住所：高崎市赤坂町 73
TEL：027-322-6001
営業時間：9時～18時
定休日：水曜



(1911) 旧市内37社を合祀して高崎の総鎮守となり、翌年「高崎神社」と改称された。

その高崎神社のお社と並んでいるのが美保大国神社。昭和4年(1929)に商工業の振興をはかるため、島根県的美保神社より恵比寿様の分霊を迎え、大黒様とともに祀られたのが始まりで、毎年11月第4土曜、日曜に行なわれる「あびす講」は、高崎の名物行事である。

高崎神社の並びにある「信松庵」は高崎で最も古いといわれる蕎麦処。あびす講や年越し、初詣、結婚式など、高崎神社の賑わいと共に多忙を極めてきた。

その先の本町一丁目交差点は、かつて越後に向かう三国街道の起点であり、旧中山道と三国街道が出会う場所。ここを左に折れて烏川へ向かってゆるや

かに下る道が「旧中山道・赤坂通り」である。

■鎌倉時代の高崎の御家人の物語「鉢の木」に由来

その赤坂通り沿い、高崎神社の北隣りにある「献上銘菓処 鉢の木 七富久」。店内のショーケースをのぞくと、季節を映す彩りの豊かさ、行事やイベントに関連した楽しさを演出した上生菓子が並ぶ。その手づくりの品揃えの豊富さは日本一といっても過言ではない。見てい



ると心が躍り、一口食べると幸福感到に包まれる。

「若い人たちにも和菓子にもっと親しんでほしくて、色づかいなども明るくしています。

栗、柿、ゆず、そばなど自然の味覚を取り入れ、常に季節感を織り込んでいます」と話すのは35年のキャリアを持つ石川久行さん。業界でも先進的な取り組みや後進の育成に熱心なりーダーとして知られている。大正6年(1917)創業の老舗の3代目である。その手がひとつとたび動き出すと、魔法のように和菓子が生まれてくる。

店名の「鉢の木」は、鎌倉時代の高崎の御家人・佐野常世の物語「鉢の木」に由来する。高崎の佐野に住む常世は貧乏御家人。僧に身をやつした鎌倉幕府の執権北条時頼が、雪の中で一夜の宿を常世夫婦に願い出ると、秘蔵の梅・桜・松の盆栽を火にくべてもてなした。陰謀により本拠地を失ったが、それでもいざ鎌倉となれば、真つ先に馳せ参じる決意であることを時頼に話す。常世の忠義を喜んだ

時頼は、やがて領地を常世に取り戻し、梅・桜・松にちなんだ3領地も与えた。この『鉢の木』の話は1月の謡曲になっている。

「上州人の正直な心、忠誠心、内助の功などが表現されているこの物語が大好きです。半生菓子『鉢の木』は、口当たり良く仕上げた当店自慢の一品」。その淡く上品な見た目は、初春から桜の季節のお茶うけに特にお勧めだ。

■曹洞宗の恵徳寺と長松寺

「鉢の木」の西隣りには曹洞宗の寺「松隆山恵徳寺」がある。ここは、天正年間(1573～1592)に井伊直政公の伯母恵徳院のために創立されたもので、慶長3年(1598)には箕輪城主だった井伊直政が和田城入城の折に「松隆山東向院恵徳寺」と改め、城下に移転し寺に格上げした。直政がこの地の名を「松ヶ崎」としてはどうかと恵徳寺の僧英潭に相談したところ、「草木には榮枯があるが、高さには限りがない」と進言したことか



◀十一面観音堂

■松隆山恵徳寺（曹洞宗）
住所：高崎市赤坂町 77



■赤坂山長松寺（曹洞宗）
住所：高崎市赤坂 30

門前

ら「高崎」の地名が誕生したという。その由来が碑文として入口のところに掲げられている。（由来には諸説あります）

曹洞宗のもう一寺は、赤坂通りを少し下った右側にある「赤坂山長松寺」。寺領十万石の朱印をもっていた寺で、寛永元年（1624）興禅寺六世春喜和尚が中興し、曹洞宗に改宗して隠居寺とした。その後、現在の地に移転。この寺の庫裏の一室は、寛永10年（1633）に自刃して果てた將軍家光の弟、駿河大納言徳川忠長卿の部屋が高崎城内より移築されたもので、襖の戸板には血痕が残されている。また、甘楽郡野上村出

身の狩野探雲作の2点の天井絵「長松寺の大間、向拝天井絵」と「涅槃画像」は類まれな大作で、高崎市重要文化財に指定され、幕府絵師の地方での活躍や信仰と奉絵などを伝える重要な資料となっている。

■風にたなびく櫓の布地 県内唯一の注染の手ぬぐい

長松寺の門前を下つていくと、右手奥に高さ10メートルほどの櫓から長い布が何十枚も垂れ下がり風にたなびいているのが見える。訪ねてみると、そこは明治30年（1897）創業の（有）中村染工場。100年以上の歴史ある住まい兼工場の玄関を入った土間には、伝統的な絵柄やモダンな絵柄、高崎のご当地もの、干支や季節の草花など、実に様々なデザインが施された手ぬぐいがディスプレイされ、販売用に並べられている。

今では群馬県唯一となった注染工場で、ご主人の中村純也さん以下3人の職人さんが工房で働く。注染とは手彫りの型紙を使用し、一枚ずつ防染糊



■（有）中村染工場
住所：高崎市常盤町 40
TEL：027-322-5202
営業時間：10時～17時
休日：土日祝



を置いて生地を数十枚重ねた上から染料を注いでいく昔ながらの染め方。一枚一枚に個性があり、職人の技と息づかいが感じられる。肌触りも良く、洗うたびに生地が柔らかくなり手に馴染む。また絵柄に表裏の区別がないのも特徴だ。

手ぬぐいとして使うだけでなく、ティッシュボックスカバーにしたり、タペストリーとして壁に飾ったり、ワインなどのボトルを包んで贈ったりと、アイデア次第で使い方も広がる手ぬぐいの魅力。伝統の技から生ま

れた価値あるものとして、手染めの手ぬぐいを日常の暮らしに取り入れたくなる。

■木樽仕込み・天然醸造 伝承の製法にほんいち醤油

新旧の住宅地が入り混じる路地を、再び旧中山道の通りに出て右折したところに、歴史を感じさせる「岡醤油醸造株式会社」の店舗と、レンガ造りの高い煙突に目を奪われる。

こちらも創業は明治30年。近江商人の岡忠兵衛が足尾銅山から江戸へ銅を運ぶ街道の要衝





現在、醸造は大間々工場に統合されている



■岡醤油醸造株式会社
住所：高崎市常盤町5 TEL：027-322-2306
営業時間：8時～17時
定休日：日祝日・第2・3土曜

として栄えたみどり市大間々町に、「河内屋」の屋号を掲げて醤油醸造業を創めたのが天明7年（1787）。その四代目・宗一郎の時に、ここに高崎支店を開設したのが始まりとなる。以来、「ヒキソーイチ」の名で醤油も店も親しまれてきた。今では醸造は大間々工場に移り、国産原料を伝承の製法で造る木桶仕込み・天然醸造醤油を、「にほんいち醤油」の銘柄で販売している。

ル小袋などのコーナーがある。一口に醤油といえども品数が豊富。また、醤油とポン酢のオリジナルアイスは中山道散策を楽しむ人たちにも人気で、店内の好きなどころに腰掛けて味わう人も少なくない。

■赤煉瓦がシンボル 緑豊かな小さな図書館

岡醤油醸造のはす向かい、常盤町交差点の角に歴史を感じさせる赤煉瓦塀がある。「気軽に出入りください。山田文庫」という看板に誘われて敷地内に入ると、月桂樹・黒松、檜など約40種百本の樹木が植えられた1,215㎡の敷地内に木造和風住宅が建つ。その居間部分の南側が大きく開放され、図書館

になっている。

この山田文庫は、高崎倉庫(株)の社長だった故山田勝次郎・とく夫妻の私邸だったが、昭和49年に私財を投じて財団法人山田文庫を設立。「子どもたちに読書を通して豊かな人間性を養ってほしいと、昭和49年から平成24年までに学校図書購入助成として県下330校の小中学校・高校に約6,800万円の寄付を行なってきた。一方私邸は夫妻の没後、図書館に改築され、広く一般に公開されている。



■財団法人山田文庫
住所：高崎市常盤町25 TEL：027-322-2531
開館日：毎週 日・水・木・金・土曜日 10時～16時

文庫のシンボリックな赤煉瓦塀は、大正時代に九蔵町にあった旧茂木銀行（横浜銀行の前身）を解体したときに、当時当主だった山田昌吉によって移築されたもの。

ボランティアスタッフによって運営されている図書館は、アットホームなサロンの雰囲気があり、街歩きの人でも気軽に立ち寄れる。

旧中山道・赤坂通り界隈は、住宅など新旧の建物が軒を連ねる下町情緒のあるまち。そこかしこに時の忘れ物のような史跡が残る。視線を高くすると、中村染工場の櫓や岡醤油醸造の赤煉瓦の煙突、美峰酒類の工場の煙突など、高い建造物がまちの表情を豊かにしている。



山田文庫の庭から見える岡醤油醸造の煙突



◀美峰酒類(株)の工場の煙突

第19回 絵本原画展「ユーモア!? ナンセンス!」

2 | 2~12
(土) (火)

※会期中無休



- 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）
- 高崎シティギャラリー（第一展示室、予備室）
- 入場料：一般前売り／600円（当日800円）
子ども前売り／400円（当日500円）

■特別企画『こびとづかん』著者
なばたとしたか サイン会（抽選で100名様限定）
●日時：2月2日（土） 午後1時30分～
●場所：原画展会場内

■片山善博（元総務大臣）&
飯野眞幸（高崎市教育委員会教育長）対談講演会
「学校図書館と知の地域づくり」
●日時：2月2日（土） 午後1時30分 開場
午後2時 開演
●場所：高崎シティギャラリー・コアホール
●入場料：前売り／800円（当日1,000円）

■絵本作家・長谷川義史さんによる「絵本ライブ
はせばん&たけぼん 絵本と音楽とマジックコン
サート」 ※終了後サイン会あり

●日時：2月3日（日） 午後1時 開場
午後1時30分 開演
●場所：高崎シティギャラリー・コアホール
●入場料：一般前売り／1,500円（当日2,000円）
子ども前売り／1,000円（当日1,500円）

●お問い合わせ
NPO法人 時をつむぐ会
〒370-0852 群馬県高崎市中居町4-31-17
TEL.027-352-0006
<http://www3.ocn.ne.jp/~honnoie/>

梅祭り特集

EVENT

榛名の梅祭り ●3月17日(日)



榛名地域は東日本一の梅の産地です。榛名梅林には「白加賀」を主として約12万本の梅が咲き誇り、甘い香りを放ちます。

観梅期間は例年2月下旬から3月下旬にかけて、梅の花の白で山々が覆われる景色を楽しんでください。

また、3月17日（日）には「榛名の梅祭り」が行われます。

榛名の梅祭り

- 主会場：榛名文化会館（エコール）前庭
 - 開催時間：午前9時30分～午後3時30分
 - イベント内容
 - 梅製品の無料提供、販売 ●芸能ショー
 - キャラクターショー ●その他ゲームやコンテスト
- など梅の香りの広がる梅林で、一足早い春を満喫してください。

●お問い合わせ：榛名の梅祭り実行委員会
（高崎市榛名支所産業観光課）
TEL.027-374-5111

みさと梅祭り ●2月下旬から3月下旬



関東平野を一望できる箕郷梅林は、榛名山南麓の丘陵300haに、約10万本の梅が栽培されています。そのほとんどが、実を収穫するために管理されている生産梅林です。6月の収穫時期には、たわに実った大粒で新鮮な青梅が収穫され、

本市は東日本一の梅の生産量を誇っています。

2月下旬から3月下旬にかけては、この梅が一斉に花を咲かせ、一面に広がった純白の絨毯のような景色が楽しめます。一度は見ておきたい高崎の絶景ポイントです。

また、梅の開花に合わせて、「みさと梅祭り」が開催され、地元特産の梅製品や農産物などを販売する売店も出店し、目、鼻、口で梅を満喫できます。そのほかに各種イベントも予定されており、毎年大勢の観光客で賑わっています。雄大な景色と甘酸っぱい香りに包まれながら、家族そろって一足早い春の訪れを感じてみませんか。

駐車料金：普通車両／300円 大型車両／1,000円
●お問い合わせ：箕郷支所産業課
TEL.027-371-9065

EVENT

多胡碑一般公開

3 | 10
(日)

年に一度の恒例行事となっている多胡碑の一般公開が、3月10日に行われます。高崎市吉井町池にある多胡碑（特別史跡）は、およそ1300年前の和銅4年（711）に、この地に新しく多胡郡が設置されたことを伝える石碑です。日本三古碑のひとつに数えられているほか、今も語り継がれる「羊太夫伝説」の遺跡として知られ、また山上碑、金井沢碑と合わせて上野三碑と呼ばれ親しまれています。

通常、碑は「上毛かるた」の絵札でおなじみの建物内に保管されていますが、一般公開では実物を間近に見ることができます。関連イベントや書道展も併せて開催します。詳しい日程をご確認のうえ是非お出かけください。

●お問い合わせ：多胡碑記念館 TEL.027-387-4928

第27回 高崎映画祭

FESTIVAL

3 | 23~4 | 7
(土) (日)

●高崎市文化会館／高崎シティギャラリー／
シネマテークたかさき
※上映ラインナップおよび期間中の各種イベントは
2月上旬に公式HP等にて発表

地方でなかなか観られない単館ロードショー作品や、名作、ドキュメンタリー、インディーズ作品など、多種多様な映画を一年に一度まとめて上映する高崎映画祭。今年もさまざまな国、ジャンルの作品を取り揃えて上映いたします。毎年盛大に盛り上がる授賞式は3月24日。その他期間中は、高崎の街中を映画とともに楽しんで頂けるイベントが開催されます。

●お問い合わせ：高崎映画祭事務局 高崎市あら町60-1 TEL.027-326-2206 <http://www.wind.ne.jp/tff>



七草大祭だるま市

05

1 | 6・7
(日) (月)

- 日時：1月6日（日）正午頃から
1月7日（月）昼頃まで ※6日の晩は夜通し
- 場所：群馬県高崎市鼻高町296番地 少林山達磨寺
- アクセス：電車／JR信越本線
高崎駅～群馬八幡駅
バス／群馬バス
高崎駅西口～少林山バス停

※だるま市当日、少林山周辺は交通規制が行われます。
大変込み合いますので、公共交通機関でお出かけください。

●お問い合わせ：少林山達磨寺 TEL.027-322-8800
(社)高崎観光協会 TEL.027-321-1257

毎年、正月6日と7日の両日に少林山達磨寺では、『だるま市』が盛大に開かれます。

だるま市は正式には『七草大祭だるま市』といいまして、本堂に祀られる『北辰鎮宅霊符尊』の縁日に行われる星まつりの行事がもとになっています。

この本尊様は北極星と北斗七星を神格化した方位除けの霊神で、星の輝きの強い丑の刻（午前2時ころ）が一番御利益のある時間とされるのです。

古くから行われていた星のお祭『七草大祭』に『だるま市』が同時に行われるようになり、このお祭りになりました。ですから上毛カルタの絵札には、だるまと共に北斗七星が描かれていますし、夜が賑やかなお祭りなのです。

だるま市では、大小さまざまな『高崎だるま』が売り子の威勢のよい掛け声とともに、一年の福をもとめてくる参拝客に買われていきます。

高崎だるまは、丸い体と、ひとつひとつ職人によって描かれた眉は鶴、鼻から口髭は亀をあらわす縁起のよい顔が特徴で、縁起の良いことから福だるまとも呼ばれています。

高崎だるまは、群馬県第一号の地域ブランドとして群馬県のみならず、全国的に知られています。

1月～3月の主な開催イベント

EVENT

06

- 1月8日 福だるま市（新町）
- 1月10日 初琴平（新後閑町）
- 1月14日 八幡の鳥追い（八幡町）
- 1月中旬 どんど焼き（各町）
- 1月15日 強弓始式（棟高町）
北向道祖神大祭（倉賀野町）
- 1月16日～17日 水沼夜観音縁日（倉渕町）
- 1月18日 柳原馬頭観音だるま市（南大類町）
- 1月28日 室田滝不動尊大祭（中室田町）

- 2月上旬 新町ひなまつり（新町）
- 2月3日 節分祭（各町）
- 2月10日 多胡碑マラソン大会（吉井町）
- 2月15日 榛名神社御神楽始（榛名山町）
- 3月10日 第22回 TAKASAKICITY はるな梅マラソン（上里見町）
オリエンテーリング高崎大会（観音山）
- 3月18日 柳原馬頭観音縁日（南大類町）
- 3月19日 御嶽教による火渡祭 五霊神社（貝沢町）
- 3月31日 カタクリ咲いたまつり（吉井町）
春季例大祭 諏訪神社（金古町）

●お問い合わせ：(社)高崎観光協会事務局 TEL.027-321-1257



ようこそ高崎 人情市

今後のスケジュール

- 平成25年1月27日（日）（午前8時～午後3時） ※会場：もてなし広場
- 平成25年2月24日（日）（午前8時～午後3時） ※会場：もてなし広場
- 平成25年3月24日（日）（午前8時～午後3時） ※会場：もてなし広場

●お問い合わせ：事務局 NPO 法人高崎やる気堂（高崎市石原町 3235）
TEL&FAX 027-343-5130 <http://ninjou.gunmablog.net/>



07

まちのシンボルとして

大正から昭和にかけて高崎の花街史を飾った高崎電気館



◀昭和4年に新築された高崎電気館

●100年前の正月に電気館が開館

明治時代から芝居を興業していた演芸館で活動大写真が上演されて人気となり、ブームを受けて常設の映画館が高崎に初めてできたのが、今から100年前。大正2年（1913）の1月1日、花街・柳川町に電気館が開館し、まちのシンボリックな建物として、多くの人々を呼び寄せる場所となった。

無声映画の時代、電気館の舞台の右横手には弁士用のテーブルと椅子が出ており、白扇を持った弁士の姿があった。三味線や小太鼓など演奏隊が控え、映画を盛り上げた。

休憩時間には、1階の右側の木戸を開けて空気の入れ換えが行われ、開放された戸の前は娼家「越後屋」の路地に面していた。

昭和4年、木造だった電気館が火災で焼失したため、鉄筋コンクリート造のモダンな新館に建て替えられた。洋式が取り入れられ全部椅子席となり、土足のまま入場できるようにになった。照明設備も明るく、喫煙室も各階にでき、中二階の休憩室と一

花街の面影が漂う電気館界限

階東側非常口の近くに設けられた売店には、白いエプロン姿の店員がいる、近代的な映画館となった。

●花街の正月の風景

高崎の柳川町というと、戦前戦後を通して県下でも有名な花街として知られていた。日が暮れると町内が賑やかになり、花街全体が生き生きしてくる。軍服あり、若者、年配者たち、私たちの発する客引きの声や三味線の音も流れていた。お正月の松の内の頃には、島田の髷に稲の穂の簪をつけ、黒着の裾をつまんで、得意先回りをする仇な姿の芸者衆のあとを、箱丁（共の男衆）が付いて歩く風景も見られた。

電気館の真ん前には銭湯・柳湯があり、商い屋の多いこの地区では内風呂のある家は少なく、どの家も入浴はここを利用した。元旦の一番湯の立つ、午前6時には町内の子供たちも一番乗りをめざして集まった。

●大ヒット歌謡曲「お富さん」

昭和30年2月、電気館では「お富さん発表会」が開かれた。「お富さん」は春日八郎の大ヒット曲で、作詞をした山崎正（本名：松浦正典）は旧制高崎中

学を経て東京美術学校に進んだ柳川町の住人。♪粋な黒塀見越しの松に仇な姿の洗い髪死んだはずだお富さん♪の「黒塀の屋敷」は、柳川町1番地が背景となっている。また、「お富さん」は映画にもなり、電気館で上映されたときは、町内の役員をはじめ大勢の地元の人たちが見に行ったという。

●花街と映画産業の衰退とともに

柳川町が正月や祭りのときに山車が出て芸者の手古舞のついた華やかな賑わいのあったのも、戦前の頃と戦後昭和30年代前半までのこと。昭和33年の売春防止法の施行以降は、芸者置屋がなくなり、娼家をはじめ射的遊技場などもほとんど廃業し、まちは一大変革期を迎えた。

昭和41年、またしても電気館は火災にみまわれたが翌年には再建。高度経済成長の中、300軒近いバーや飲食店が乱立し賑わった柳川町の娯楽の殿堂として輝きを放った。

しかし、平成に入り映画の斜陽化が加速すると、経営の立て直しをはかるも虚しく、平成13年1月に休館となった。現在は、映画やドラマのロケ地として着目されている。